

Weekly Report

2018-19年度
名古屋瑞穂ロータリー
クラブ会長のテーマ
「継続と変化」



創会立：1980年(昭和55年)1月10日
長：平野 好道
幹事：湯澤 信雄
クラブ広報委員長：長谷川 隆
例会日：毎週木曜日 PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
TEL：052-211-8803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

2018-19年度
国際ロータリーのテーマ
インスピレーションになる
(BE THE INSPIRATION)

インスピレーションになる

第1862回例会

～職業奉仕月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2019年1月17日(木) 晴れ 第24回

司会：近藤茂弘会場副委員長
斉唱：「我等の生業」
ゲスト：元クラッシュギャルズ ライオネス飛鳥さん
：名古屋熱田RAC 一江千紗子さん

会長挨拶

平野好道会長

「中国人は小銭を返さない？」

日本人と中国人とでは、金銭感覚に違いがあるようです。あるとき、バスに乗って来た年配の方が息子に何千万円もするマンションを買ってあげたという話をしました。この話を聞いていた中国人はおかしいと思ったようです。中国人にとってどこがおかしいのでしょうか？わかりますか？それは、何千万円もするマンションを買える人がバスに乗ることが中国では考えられないためなのです。日本人は、お金持ちでも普通にバスや電車に乗り、それを恥ずかしいと感じることはありません。むしろお金持ちなのに偉ぶらないとほめられることすらあります。そこにある考えとしては、体が健康で、天気も悪くなく、重い荷物もなければバスや電車の方がいい。その方が健康にいいし、エコであって社会のためという規範、スジを共有していると考えられます。



これに対し、中国ではお金を使うかどうかは、払えるかどうか、つまりお金の量で判断します。ですから、人は歩くよりバスの方が楽だ、バスよりもタクシーの方が楽だ、タクシーよりも運転手の方が便利で楽だ。どうしてすべての人がタクシーやリムジンに乗らないかというと、それはそのお金がないからだ、と考えます。そういう考えからすると、中国ではお金があるのにバスに乗る人はまずいません。逆を言えばバスに乗っていること、＝お金があまりない、ことを意味し、持っているお金が少ないのは恥ずかしいことで、面子がない、ので、お金があるのにバスに乗ることはないのです。

先日あるロータリアンと話をしていた、運転手付の車を使う意味について話をしました。これは中国人的には、おれはお金があるから当然だということになります。しかし、日本人はそう考えないので、なぜ運転手付の車を使うのかということをご理由で使っているのだから、やむをえず使うのだと説明をされます。普通の日本人はそうですね。オレには金があるから使うんだとは言わないのが普通です。

さて、では中国人は小銭を返さないことがあるのか、返さないのはどういう理屈なのかはまた次回にお話します。

出席報告

西川徹也出席委員

会員67名 出席42名 (出席計算人数51名)

出席率 73.7% 1月10日は補填により90.0%

ニコボックス

西川徹也ニコボックス委員

・白内障の手術入院の為、先週の創立記念例会を欠席致しました。遅滞き乍ら新年お目出度うございます。今年もよろしくお願いいたします。また、1月27日は満82才の誕生日です。知らぬ間歳はとるものですね!

野崎 洋二さん

・1月8日、女房の誕生日にきれいな花をありがとうございます。

長坂 邦雄さん

・本日ライオネス飛鳥さんが卓話をされます。よろしくお願いたします。

森 裕之さん 高村 博三さん

1月誕生日おめでとう

天野 正明さん 稲葉 徹さん 村上 学さん 牧野 智繁さん
中野 健二さん 田中 宏さん 安岡 克明さん 山口 哲司さん
市岡 正蔵さん 岩田 修司さん 野崎 洋二さん

幹事報告

湯澤信雄幹事

- ・次週1月24日(木)、11:00より第2回IM実行委員会を事務局にて行います。
- ・次週1月24日(木)、第4回CF(中間決算と組織)をヒルトン名古屋4階「竹林の間」にて行います。
- ・次々週1月31日(木)11:00より職場例会を中部日本放送および東急ホテル3階「錦の間」にて行います。CBC前に10:45に集合をお願いします。

委員会・同好会報告

スキー同好会

- ・1月18日(金)～20日(日)にサッポロテイネスキー場にて第4回スキーツアーを開催いたしました。

参加者：松波恒彦 湯澤信雄 長谷川隆 鈴木健司 山口哲司(敬称略)



名古屋熱田RAC会長挨拶

こんにちは。遅くなりましたが新年おめでとうございます。ご挨拶をさせていただきたいという急なお願いを叶えていただきありがとうございます。2月6日に合同例会がございますが、当クラブの近況を簡単にご紹介いたします。12名でスタートした当クラブですが、半期を過ぎて5名の新規入会者と江南RACが閉クラブとなりましたので、1名編入してまいりました。既存メンバーと、ロータリアンの方からの紹介で、3名の入会予定があります。無事入会が済みましたら、24名の会員で活動してまいります。



当クラブは、皆様のおかげで、今年の3月15日に35周年をむかえます。その翌週3月23日に、通常例会を行っておりますローズコートホテルで記念式典を行います。それに向かひまして35周年、35名のアクターと言う目標を掲げておりましたが、他のクラブのメンバーが減少していく中で、このように新しいメンバーを迎えることができています。ロータリアンの皆様のおかげだと思っております。また35周年記念事業も大きなイベントでございますが、来期、RACの全国研修会が愛知県がホストクラブになって行われます。すでに準備は始まっております。当クラブの前期会長でありました山田こうきさんが実行委員長をつとめております。このビッグイベントに向かって、OB、OG含め新規メンバーも準備をしておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。残り半期もよろしくお願いいたします。

テーマ:「冬は必ず春になる」

皆様こんにちは。只今ご紹介にあずかりましたライオネス飛鳥です。先ほどご紹介いただいた通り、私はクラッシュギャルズとして相棒の長与千種と共に16才の頃にデビューをして、26才まで活動をしてきました。5年ほど芸能活動を行い、31才から42才まで復帰をいたしまして、40才の時に友達の誘いで銀座のクラブを手伝い、その後独立して今に至ります。当時はライオネス飛鳥がいるお店、と認知されていましたが、最近では若いホステスさんが増え、この人誰?と思われており、その子達の母親の年齢を聞くと私のことを小さい頃にテレビなどで見ていた年代なので、お母さんに聞か、ググってくれ、と自己紹介をしています。



私は昭和38年、当時長唄をしていた父と看護師の母との間に次女として生まれました。生まれた時の体重は3800g、プロレスラーになれと言わんばかりの体重で生まれてきました。生まれた時、へその緒が首に巻き付いており、チアノーゼ状態で生まれ、お尻を叩かれ産声を上げた状態で、幼少の頃から小児結核、小児肺炎、小児ぜんそく、子どもがかかるあらゆる重病にばかり保育園も休みがちな状態でした。母が看護師でしたので、当時はステロイドを使用して結核を治していましたが、その副作用で肥満児になってしまいました。人にデブと言われることがイヤで、内弁慶な性格になり、こうなったのも母のせいだとしばらく口をきかない時期もありました。その当時歌舞伎をやっていた父は、勝新太郎さん達と飲む、打つ、買うの毎日、よく母とケンカをしていました。そんな父との離婚を決意し、私が3歳の時に離婚をしました。離婚後、6年生の時に1年間大分に移り住ましたが、住み慣れた土地を離れてまた体型のことを言われるのではないかとさらに内向的になりました。母が仕事に行ったあと、1つ年上の姉と学校へ通っていましたが姉と別れたあと、小学校へは行かずそのまま家へUターンしていました。そんな生活を3ヶ月ほど続けましたが、小学校の先生やクラスメイトが家までむかえに来て温かい言葉をかけてくれ、学校へ通うようになりました。その後楽しい小学校生活を送り、また母の仕事の関係で埼玉県蓮田市という所に引っ越しをしました。当時中学1年で身長が165cm、体重が80kg程あり、体育などは避けてきたのでお腹は三段腹という体型でした。中学1年の時にテレビでビューティーペアをみて、衝撃を受けました。小さい頃からなりたい職業などなく、ビューティーペアを見た時に「絶対プロレスラーになるんだ」という気持ちから一念発起をして、80kgあった身体を1ヶ月で20kg落とし、スポーツ体型に変身しました。目標を立てて努力をすれば叶わないことはないんだ、努力次第で実現できないことはないんだと感じました。女子プロレスラーのオーディション規定が中学3年生を卒業とあったので、卒業まで待ちオーディションを受けようと思っていましたが、母が女手ひとつで育ててきて、ダイエットもして性格も前向きになり、普通の人生を送って欲しいと思っていた母からは大反対をされました。高校受験だけはしてくれと言われ、家から近い高校に入学し、身体を鈍らせるのも嫌だったのでバレエ部に所属し、12月にオーディションを受けに行きました。見事合格し、プロレス界入りの切符を手に入れましたが、母はお世話になった看護学校の校長先生に相談をして、ダメだと言ったら諦めてくれ涙ながらに説得をされ、その先生の元へ相談をしに行きました。当時5、60代の方で、「あら!いいじゃない!私、藤波辰爾さんのファンなのよ!」とおっしゃり、私は天が味方してくれたと思ひ、母も言い切った以上、入団を許してくれ、おかげ様で全日本女子プロレスに16歳で晴れて入団いたしました。3ヶ月でデビューでき、新人王、全日本ジュニア王座、全日本チャンピオンととんとん拍子にベルトを獲得することが出来ました。ですがその当時マネージャーに「おまえは強いけど面白くない」と言われましたが、その当時17才の自分には理解することができず、自分はアマチュアの世界に行った方がいいのではないかととても悩みました。プロレスはスポーツですが、エンターテインメントであり、観客の皆様楽しんでいただくことが仕事です。その事には後々気付くのですが、当時はスランプに陥り、その時、後にベストパートナーとなる長与千種との試合の時に「自分たちがトップになるにはあと5、6年かかる。そんなのぶち壊そう」といわれ、その当時のプロレスと言えば綺麗なプロレスをしなればいけない、という定義がありましたが、女子プロレスのリング上初めで平手で殴る、足で蹴るといった試合をしたところ観客に受け、徐々に人気が出てきて会社から「おまえ達タッグを組め」といわれ、何かをぶっ壊してやるとういう所から「クラッシュギャルズ」で任命をもらい、私の夢であったビューティーペアと同じように、2人コンビで人気が出て、歌を出して芸能の

仕事もやり、メインもはるとい夢が叶いました。ですがある時自分はプロレスラーを目指していたのに、練習はほぼできておらず、その事に疑問を感じ始め芸能の仕事はもうやらない、とノイローゼの状態となってしまいました。その時千種が一人て芸能活動をしてきていたのですが、当時私よりひとつ年下の千種は、私たちの人気で芸能活動をしている、そのプラスアルファで女子プロレスの人気も盛り上がっていると感じていたと思います。その時は自分のことしか考えられず1年が経ち、精神状態も落ち着きを見せてきたのでまたクラッシュギャルズとして活動を再開しましたが、人気は下降してきて日本女子プロレスの経営側も新たなスターを作りたいと思っており、元々25才で定年と言う事もあり、千種が先に引退し片翼を失った状態ではうまく飛べるわけもなく、私も26才の時に引退をしました。その後5年間芸能の仕事をしていましたが、来る役が女ヤクザかスケバンの役でアクションばかりで、それならプロレスに戻った方がいいのではと思っていた頃、千種も復帰をしていたので私も復帰を決意しました。復帰するまでの5年間にルールやプレーのスタイルも大きく様変わりしており、その変化に付いていくことが出来ずにいた所、31才の時に体調が悪くなり、日に日に体重が減っていききました。ひとつ上の姉が看護師で、相談したところ母親が甲状腺の病気にかかっていたので甲状腺の病気かもしれないといわれました。得意だったジャイアントスイングもまったくできなくなり、新聞には酷評されました。そこまで書かれてしまつてもなののかととても悩みましたが、やはり「ライオネス飛鳥」としてやってきたプライドもあり、退院して先生の了解をもらい、総合格闘技の練習から始め身体を作り直してまた復帰をしました。もとのライオネス飛鳥のイメージでプロレスをしていたので、何となく復帰をしてなんとなくの試合しかできておらず、ある方から「思い切ってヒールに転向してはどうか」と助言を頂きました。今までの自分のイメージもある、もしかしらダメになるかもしれないととても悩みました。ですが何もないよりは一か八かかけてみようという世界に入りました。それがとても楽しく、クラッシュギャルズ時代にやられていたことを逆にやり返す、という力に変わり、フリーでの復帰だったので各団体に呼ばれ、クラッシュギャルズ時代は年間最多310試合、平均280試合でしたが、年間180試合で男女あわせて最多出場選手として表彰を受けたり、女子プロレス大賞を2回頂いたり活動をさせていただきました。

よく世間の皆様からクラッシュギャルズは仲がいいのか悪いのか、いまだに聞かれますが、復帰した当時は千種も団体をもっており、ある時アジャコングと尾崎魔弓が声をかけてくれ、後楽園ホールで試合をすることになりました。長与千種と後輩レスラーが組み、アジャと尾崎が組んでいる試合に私が登場し、誰しもが千種を助けに来た、と思ったところで私が千種を攻撃したので観客は騒然となり、そこから双方の対決が始まりましたが、私としてはある種芸術であったかなと思うような活動をさせていただきました。その間、首をケガして、また同じ箇所ダメージを負うと四肢がマヒする可能性があるといわれました。その後、長与千種からの呼びかけもあり、「クラッシュ2000」として再始動しました。ですが首の故障もありこれからの人生まだ長く、再度のケガで四肢がマヒをして自分では何も出来ない状態になってしまうのは正解ではないと思い、千種も肩を痛めていたので、42、3才の頃に2人で引退という形を取りました。15の時から反対をしていた母も、いつの時代も応援をしてくれて、遠征先にはおでんを作って持ってきてくれたり、陰日向となり応援をしてくれました。その母が常々「冬は必ず春となる」という今回のお話のタイトルでもありますが、人生にたとえると自分も辛い時もありましたし、皆さんも若い時に多くの苦勞をされたかと思います。その間がいつ明けるかわからないけれども、明けない闇はない、冬は長いかもしれないけれど、いつかは温かい春がくるんだ、と母は育ててくれました。何度か挫折もし、プロレスをやめてしまおうかと思ったこともありましたが、母の言葉と、13才の時に思った「目標を立てて努力したら叶わないことは絶対ない」という気持ちをずっと持っていたので、続けてこられました。あとは憧れていたビューティーペアのジャッキー佐藤さんが持っていた全日本女子プロレスのベルトを獲得するという意思を持って入門し、10年かけて獲ることが出来ました。後輩達にもいうのですが、まず目標を立てること、そこに対していかにアプローチしていくかということ、そしてその目標に向かって自分が何をしていくのかというプロセスが一番大事であって、目標を達成できないかもしれないけど、その目標に向かって自分が努力している中で答えが必ず出てきます。今は縁あって、銀座で小さなお店を営業しております。今年の3月で14年目を迎えます。自分の力だけではなく、周りの人達の協力などで支えられています。今後はお店をあと10年頑張るという気持ちでやっていきたいと思ひます。東京にいらした際はお立ち寄りください。

例会のご案内

■今週の行事 1月24日(木) 第4回クラブフォーラム(中間決算と組織)

■次週の行事 1月31日(木) 職場例会

場 所: 中部日本放送株

時 間: 11:00~

■次々週行事 2月6日(水) 4RC合同例会

場 所: 名古屋観光ホテル

時 間: 18:00~20:00